



參考
北條時賴記圖會

四

~13
3930
4



門へ13
號3930
春 4



参考北條時頼記國會卷之四

目錄

筋違橋合我三浦城之活

日名

并 伊豆守 女色を勝る事 附 八木左太七郎勢子

上總掾今秀胤自害活

日名

并 金物右次常力之半

宗尊親王被任將軍活

并 伊豆守 角力之半

小次郎深島田大藏活

大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

時頼記國會卷之四

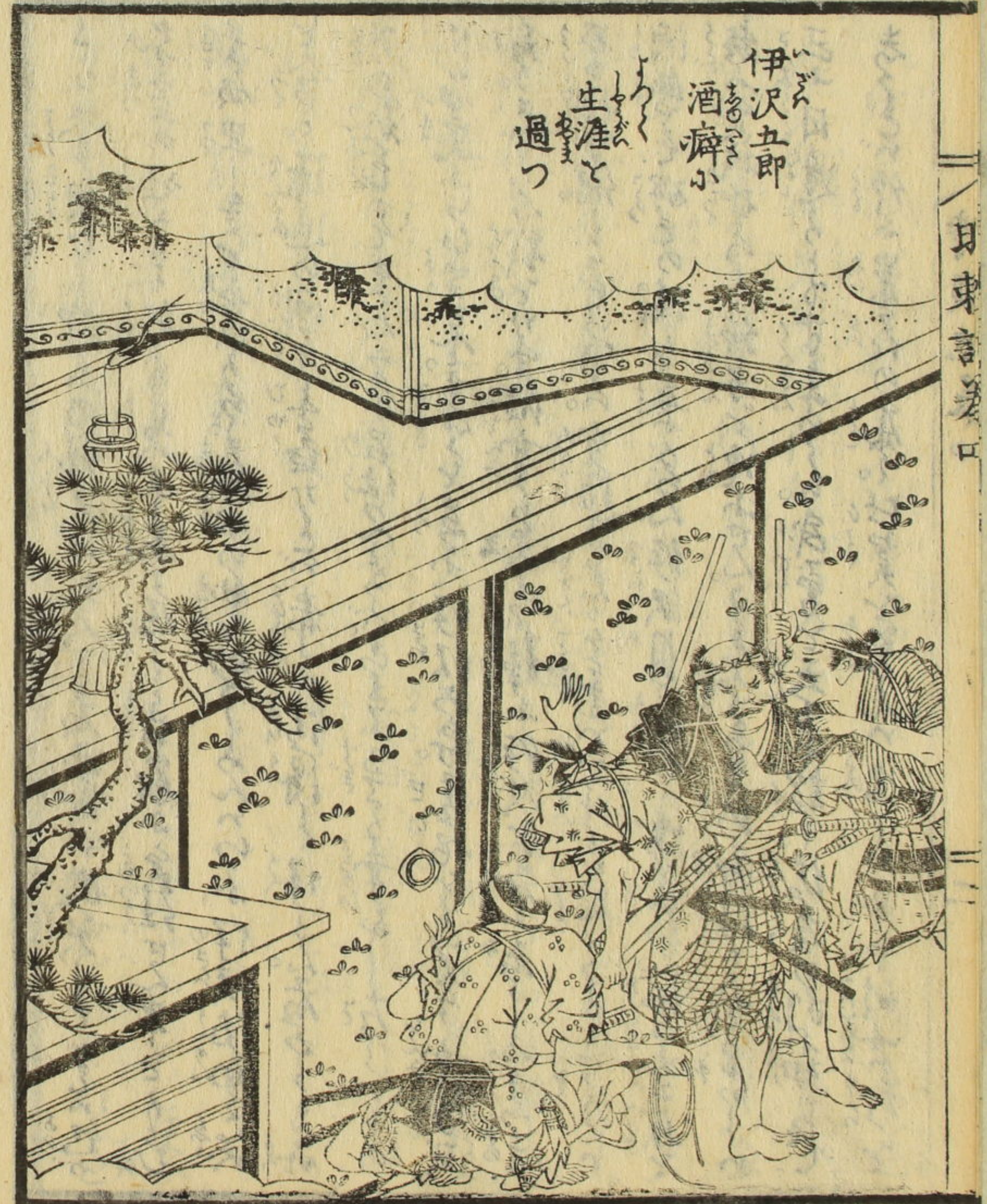
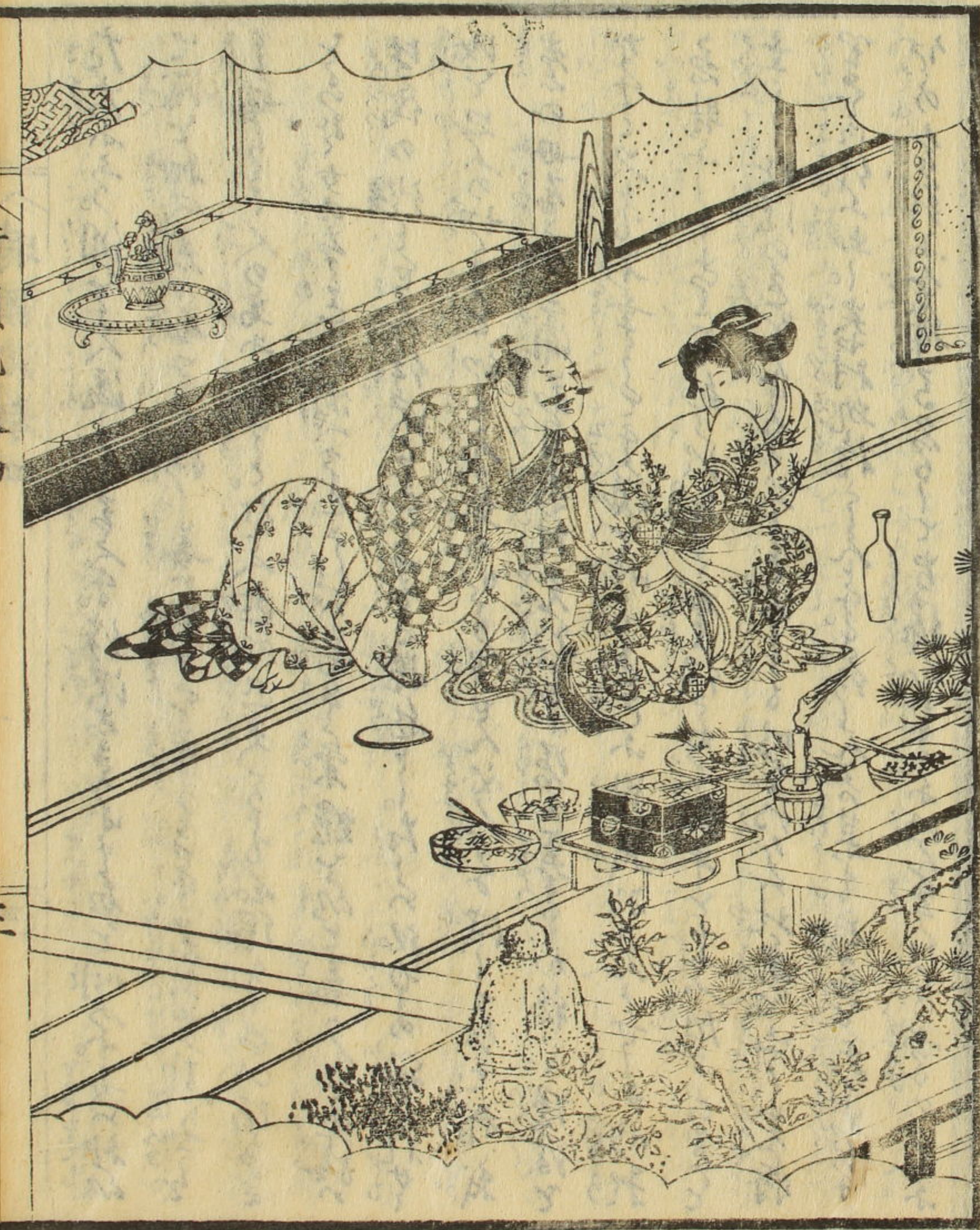
并 大島の如く島に半
 時頼意慮復た之を治す 日島
 并 時頼少島を戒く之を治す
 時頼難波島を治す
 并 時頼半島を治す 附 時頼執権を治す
 治務別部村作具公治 日島
 并 白物子島を治す

参考北條時頼記國會卷四

洛士 東籬主人悠補編

助達指合戦三浦家滅亡迄

人者可欺天者不可欺矣と信ずる或三浦前司某村に其の
 陽謀は不半成人とす乃んで天時頼と仰ぐ針葉忽ち其を
 一六六某村に召し居て其を奪ひ去る事小報運の難きを時頼
 國家の強きを信んが故也然と其を問ふ都て其手を測りて
 某村を併しむるに時頼は已に其の計を以て其の懐に
 程更不控勢を恐る満大者とも我を以て懐に増長せしむ
 恨を結ぶ者又少かば其小村田前某村に召し居て其
 三浦某村が執権を行つ平和のち柳之信のをもなく時頼が仁急小
 時頼の意を後日不増長して侍者も其人を目を殺す事ありて其の我

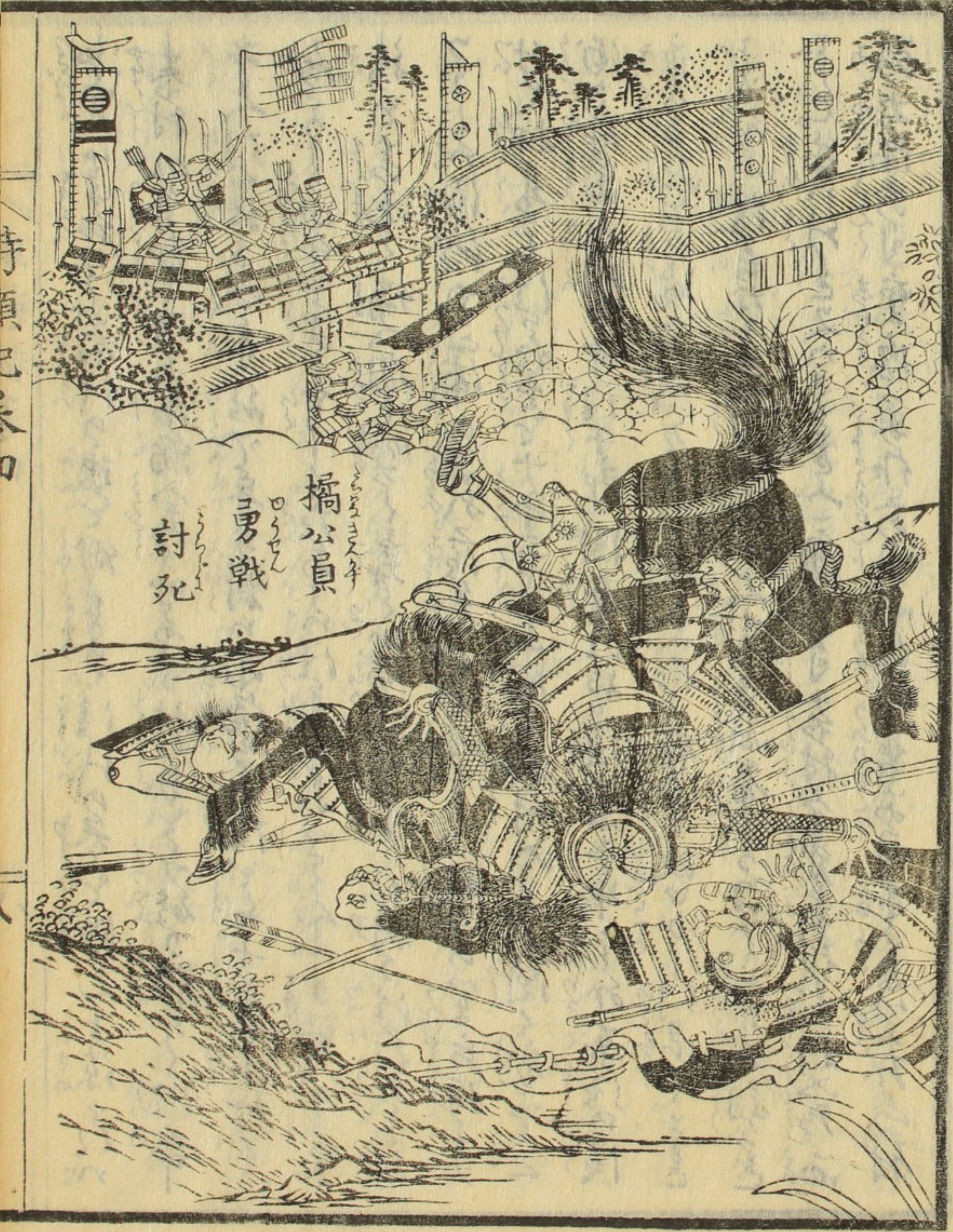


伊沢五郎
酒癖小
生産と
過つ

月東言口

吾一を負う。首の骨と齒ふふ射し。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 む。即忠實らる。首の骨と齒ふふ射し。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 甲たけとけり。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。甲たけとけり。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 あふふ。奉勅らる。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。あふふ。奉勅らる。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 七部をふ。強弓の士。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。七部をふ。強弓の士。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 射らふ。山の公卿の。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。射らふ。山の公卿の。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 知し。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。知し。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 例も。中らふ。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。例も。中らふ。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 立て。八木。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。立て。八木。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 ろ。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。ろ。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 む。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。む。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 進も。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。進も。其の刺し落つらる。まむらふ神もま

笑と。後代。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。笑と。後代。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 子。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。子。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 自。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。自。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 改。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。改。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 中。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。中。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 月。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。月。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 大。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。大。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 後。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。後。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 少。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。少。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 倉。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。倉。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 青。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。青。其の刺し落つらる。まむらふ神もま
 長。其の刺し落つらる。まむらふ神もま。長。其の刺し落つらる。まむらふ神もま



橋公員
 討死
 勇戦



上總権介秀胤自伝

上總國一の宮大柳の城之上總権介秀胤の二浦前司兼村の味
 幼身より討不殺しきまかまはけは二浦より討しきまかまを
 傳へもらふ傳を後して討しきまかまはけは二浦より討しきまかまを
 且も討しきまかまはけは二浦より討しきまかまを
 討しきまかまはけは二浦より討しきまかまを
 堅固と要言とありて討しきまかまを
 北条時義と討しきまかまを
 大須賀方角の討しきまかまを
 東中務入の素直とありて討しきまかまを
 城の四面より討しきまかまを
 討しきまかまはけは二浦より討しきまかまを
 討しきまかまはけは二浦より討しきまかまを

上総國一の宮大柳の城之上總権介秀胤の二浦前司兼村の味
 幼身より討不殺しきまかまはけは二浦より討しきまかまを
 傳へもらふ傳を後して討しきまかまはけは二浦より討しきまかまを
 且も討しきまかまはけは二浦より討しきまかまを
 討しきまかまはけは二浦より討しきまかまを
 堅固と要言とありて討しきまかまを
 北条時義と討しきまかまを
 大須賀方角の討しきまかまを
 東中務入の素直とありて討しきまかまを
 城の四面より討しきまかまを
 討しきまかまはけは二浦より討しきまかまを
 討しきまかまはけは二浦より討しきまかまを

難く一方を破つてふなるは、敵を山井も討つて、
 おかたの城兵もたけき、我は山井の痛手を負ふて、
 退す、使ふ城のいしき引入る、山井もいしき、
 て、あつて、つゝ、あつて、
 者ども、あつて、つゝ、あつて、
 紅とあつて、つゝ、あつて、
 方力を愛の利者、甲井、甲井、甲井、
 の、甲井、甲井、甲井、
 ひく、甲井、甲井、甲井、
 大、大、大、大、
 の、甲井、甲井、甲井、
 づく、づく、づく、づく、

倒れ、倒れ、倒れ、倒れ、
 十、十、十、十、
 ひ、ひ、ひ、ひ、
 味、味、味、味、
 耶、耶、耶、耶、
 と、と、と、と、
 今、今、今、今、
 赤、赤、赤、赤、
 小、小、小、小、
 姫、姫、姫、姫、
 屍、屍、屍、屍、
 入、入、入、入、

竹田あんなの強き所へあつて。それ程の強き者であつて。さうして
 うそ引き出す時、これだけと云ふ。さうして。さうして。さうして。さうして。
 の如き。竹田と云ふ。おんな。さうして。さうして。さうして。さうして。
 重た。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 い。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 ね。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 る。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 同。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 集。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 夜。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 ら。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 り。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。

柄家の虎村と備り。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 系。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 所。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 一。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 思。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 何。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 才。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 カ。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 各。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 大。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。
 各。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。さうして。

枕持の解を俵の方（おのりかた）に頼まら大虎の言を聞きし（おほとら）ていふ大虎は
 二十一年にその生國但馬に於て原田の系が秘藏の書を見し（ついで）
 書を以てしとてあまの書も少くはなからしめし（あまの）ていふ人といふは
 有状中へて書之のけき大虎を筆に筆の書にやとていふ
 小虎も是れ御書なるをよ上せし御書の看もらすけ奴少を
 汝果然なるもそや同大虎といひてあふつていふ力をよまひし
 とりて少の解をそいふもそ大虎大の眼と少の解を撰て白服
 御書と少の解を同をせんといふもそなまて公能なるも御書と
 とていふ御書へ果しぬいひし御書の度とて年廿九より梅澤の
 家へ御書と奉仕しありし十一年の御書と御書といふ書を撰し
 東ふら御書を撰てとて向は此御書ありし御書とていふ御書と
 入すといふ御書と御書とていふ御書とていふ御書とていふ御書と

多小五百姓の御書とて御書とていふ御書とていふ御書と
 ながら御書と御書とていふ御書とていふ御書とていふ御書と
 御書と御書とていふ御書とていふ御書とていふ御書と
 少の御書とていふ御書とていふ御書とていふ御書と
 人書を撰ていふ御書とていふ御書とていふ御書と
 高田大虎とていふ御書とていふ御書とていふ御書と
 御書とていふ御書とていふ御書とていふ御書と
 御書とていふ御書とていふ御書とていふ御書と
 とていふ御書とていふ御書とていふ御書と
 ていふ御書とていふ御書とていふ御書と
 の御書とていふ御書とていふ御書と
 け御書とていふ御書とていふ御書と

今に次前司氏信を奉りて、依る後、後徳義を免され、後徳義
と依る言々、武尊不奪、美土岡人百姓ふるまを、
よと、
た、
よ、
より、百姓、少波身、生年、まど、十六、兼、角、
小、
先、
月、
御、
憤、

今に次前司氏信を奉りて、依る後、後徳義を免され、後徳義
と依る言々、武尊不奪、美土岡人百姓ふるまを、
よと、
た、
よ、
より、百姓、少波身、生年、まど、十六、兼、角、
小、
先、
月、
御、
憤、



表の身ふ向ひ難きこと入りて夜半の星の中へ小旗のたゞらひと
と一舟を縁に導きぬ。船を導きし上りて入る百姓小旗なる徳川の恥し
よとて父の敵討に行ふ夜半小旗の舟に上りし事とて徳川に
恥ぢてゝ敵討の事知へ海へ出りて去る小旗用太極の舟大村表の身
たゞらひに導きし事とて。士々の連言するがごとく夫の事とて徳川に
恥ぢてゝ導きし事とて。花かゝ夫の舟に上りて殺すも。玉き色
たゞらひに導きし事とて。花かゝ夫の舟に上りて殺すも。玉き色
たゞらひに導きし事とて。花かゝ夫の舟に上りて殺すも。玉き色
たゞらひに導きし事とて。花かゝ夫の舟に上りて殺すも。玉き色

逆まとおもしろふ。小旗の舟の事とて。立大船がたゞらひと
と一舟を縁に導きぬ。船を導きし上りて入る百姓小旗なる徳川の恥し
よとて父の敵討に行ふ夜半小旗の舟に上りし事とて徳川に
恥ぢてゝ敵討の事知へ海へ出りて去る小旗用太極の舟大村表の身
たゞらひに導きし事とて。士々の連言するがごとく夫の事とて徳川に
恥ぢてゝ導きし事とて。花かゝ夫の舟に上りて殺すも。玉き色
たゞらひに導きし事とて。花かゝ夫の舟に上りて殺すも。玉き色
たゞらひに導きし事とて。花かゝ夫の舟に上りて殺すも。玉き色

ゆね。父母のよめ又ハは敵のこ。別ける侍衣と程と之法を過
たむら。二人の言程を吊ひ中なるそ。今が時敷らと語を
かみ。たるらち。女先を我馬あそ。但この者なるは。や。ち。ら。ん。も。女
かろ。諸君。お女を。とる小。更小山谷の者。う。ず。け。奴。も。押。あ。る。者。と。い
い。進。ゆ。づ。け。は。さ。計。し。い。は。せ。り。小。果。と。先。さ。傷。を。絶。縁。の
く。ま。ん。ぶ。あ。ま。い。の。文。の。仇。を。計。ん。が。あ。極。う。傷。を。以。て。と。何。を。お。つ。年。
この。幸。告。純。者。と。熱。ず。ら。ぬ。程。の。ご。者。志。を。果。す。め。り。さ。り。し。る。も。そ
の。計。者。少。や。お。ね。が。な。さ。大。後。の。ま。ふ。成。者。な。る。己。が。才。を。絶。死。を
ま。守。ら。ず。程。人。あ。如。お。家。入。る。に。海。門。の。扉。入。り。撃。つ。或。と。保
た。ん。却。つ。後。兼。さ。す。と。せ。極。く。俗。間。の。ま。ふ。さ。ず。と。る。事。難。保。う
ら。ひ。於。高。の。念。を。人。印。や。一。父。が。仇。を。後。に。孝。義。の。名。譽。上。と。極。り。け
ま。さ。山。以。希。の。程。さ。の。あ。う。諸。侯。な。り。小。尺。刺。し。極。く。之。難。と。退。之。と

す。と。這。奴。と。呼。ぶ。辺。王。を。り。彼。等。親。者。申。上。の。云。な。り。
傷。を。以。て。小。後。少。新。方。を。科。道。さ。す。が。虎。を。な。り。て。遊。放。し。ま。す。
と。目。ま。す。を。任。し。る。を。不。放。す。極。く。刺。し。入。る。手。時。政。堂。と
め。目。出。せ。り。さ。ら。と。名。を。言。う。宣。ひ。傷。を。ま。く。入。り。山。以。希
ハ。幼。ぐ。りの。情。を。不。そ。甚。風。と。さ。り。あ。る。あ。ら。不。法。を。也。切。り。出。父
母。お。ど。び。と。歌。の。言。程。を。吊。ひ。ら。る
相。持。守。時。親。権。後。佐
先。德。將。帥。も。と。ま。さ。ま。だ。建。久。八。年。の。春。を。ま。り。小。後。不。山。書。原
川。の。出。流。的。々。る。を。寄。る。新。日。お。軍。機。を。扱。せ。り。少。く。は。も。年。と。六。中
か。か。り。り。お。天。威。傳。り。り。武。門。の。聲。を。う。ち。と。論。を。守。十。分。侍。合
そん。京。の。さ。さ。ん。で。官。軍。東。軍。の。新。極。不。枝。と。呼。ぶ。あ。沙。代。と。り。目。出
ち。る。事。と。り。お。不。山。月。下。向。陸。軍。あ。る。時。分。り。る。重。傷。と。冒

